

2024年1月9日(火)

イスラームの旋舞教団 ～幽玄な世界～

小田急線の代々木上原駅から徒歩5分の場所に日本最大のイスラーム教寺院の東京ジャーミイがあります。小田急線電車の中からもシンボルとも言える尖塔と丸いドーム型の屋根をのぞむことができ、夕暮れ時ともなるとモスクを照らし出す照明により幻想的なシルエットが浮かび上がって来ます。現在の壮麗なモスクは、23年前にトルコ共和国の手により現地から技術者や石材などの資材を運び込んで建て替えられたものです(施工は鹿島建設が担当)。モスク内部は荘厳ながらも優雅なアラベスク模様と美しいアラビア文字で装飾されています。

1ヶ月前の12月9日(土)の夕刻、このモスクの地下コンサート会場で日本国内では珍しい木管楽器ネイや弦楽器セタールなどペルシアの古楽器を使った演奏と詩の朗読(詠唱)、ソグド人の踊りを祖にする旋舞教団と言われるメヴラーナ教団のセマーによる舞踏が披露されました。折しも駐日トルコ共和国大使もご隣席され、独創的で優美なひと時を楽しみました。

セマーの旋舞を観賞するのはこれで3回目ですが、いつ見ても即興的で無駄のない踊りに感動します。本来は大人数での旋舞ですが、今回は一人だけでした。しかし、芸術性・宗教性に圧倒され、とても感動的な共有することができました。

参考文献

東京・トルコ・ディヤナト・ジャーミイ監訳、西田 今日子訳(2006)『神秘と詩の思想家 メヴラーナトルコ・イスラームの心と愛』丸善プラネット,387+5頁。

お詫び 年末に連載していた「北京教育視察報告」の〈つづき〉は準備でき次第掲載します。

校長 石飛 一吉

